

## 編集後記

ここに、『防衛研究所戦史部年報』の創刊号をお届けいたします。年明けに刊行が急遽決まったこともあり、無事発刊でき一安心しております。『年報』の刊行は、『戦史叢書』完結以来、当戦史部の活動を防衛庁内外に理解し知っていただくためにも、戦史部の永年にわたる念願でした。二十世紀も残すところあとわずかですが、今世紀は「戦争と革命の世紀」とよく言われます。確かに我が国も、日露戦争、第一次世界大戦、そして第二次世界大戦などを経験しました。今世紀の歴史を回顧する際、『戦争』を抜きにして語ることはできないことは言うまでもありません。そうした意味において、我が国における唯一の戦史センターである戦史部の活躍が期待されており、『年報』の刊行はその大きな一歩であり、また戦史部の活動を部内外に積極的に紹介することが期待できます。

目を海外に転じ、ドイツを例にとると、戦史部のカウンターパートである国防省軍事史研究所では、紀要として一九六七年以来年二回「軍事史報告」を刊行しており、ドイツ国内のみならず海外においても、軍事史の権威ある学術誌としての地位を確立しています。戦史部も、戦後五十年がたち、遅れ馳せながら『年報』発刊に漕ぎ着けた次第です。

本創刊号にはまず、「創刊に寄せて」と題して、軍事史学会会長伊藤隆教授並びにかつて戦史部に勤務された方々に寄稿していただきました。『論文』としては戦史部員の研究成果を三篇、「国際特別研究会記録」として、ゲルハルト・ワインバーグ教授及びエドワード・マロルダ博士の研究会の記録を掲載いたしました。また、創刊号にちなんで「戦史部略史」と『戦史叢書』の来歴および概要』を特集いたしました。「史料紹介」として、「市ヶ谷台史料」、「機密戦争日誌」、及び「陸軍省大日記」(大

正編)の三史料を紹介いたしました。その他、研究会等の実施、戦史史資料の閲覧、参考調査などの状況について、「活動報告」として掲載いたしました。

最後に、本創刊号に寄稿していただいた方々をはじめとする関係各位の御協力に厚く御礼申し上げます。創刊号編集過程における種々の教訓を生かして、次号以降の内容がより一層充実することを祈念して「編集後記」といたします。

(庄司潤一郎)

### 防衛研究所戦史部年報 創刊号

平成十年三月三十一日発行

編集発行 防衛研究所戦史部

〒153-8648 東京都目黒区中目黒二二二一

電話 〇三―五七二―七〇〇五(代表)

印刷 防衛研究所印刷係